

おぢや

市議会だより



NO. 87

30.1.25

編集発行
小千谷市議会
☎83-3505

OJIYA CITY ASSEMBLY



小千谷市手話言語条例制定

12月1日に開会した平成29年小千谷市議会第4回定例会にて、議員発議による「小千谷市手話言語条例の制定について」を即決にて全会一致で可決、成立しました。

この条例は手話を言語として認識し、ろう者の言語環境の整備と市民が手話と接する機会を提供し、啓発・普及に努めることを趣旨としたものです。

手話言語条例策定委員会にて関係者との意見交換、幾度にも及び協議を重ね、パブリックコメントでも多数のご意見をいただき、市民・行政・議会で作りに上げた条例です。

- 第4回定例会議決結果 …… P2
- 常任委員会報告 …… P3
- 一般質問 …… P4~7
- 行政視察報告 …… 8~9
- 議会日誌 …… P10
- 雪あかり、編集後記 …… P10

—主な掲載内容—

明けましておめでとうございます



議長 田中 淳

皆さまにおかれましては、輝かしい新年を迎え希望に満ちた新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃から小千谷市議会への深いご理解と、議会活動に対する温かいご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。私は、昨年5月の第1回臨時会におきまして、第35代小千谷市議会議長に就任いたしました。微力ではありますが、市政発展のため全力を傾注してまいります。

昨年を振り返りますと、7月には2度にわたる豪雨災害が発生し、防災減災を含め災害対策事業を促進していく必要性を強く感じているところです。さて、今年も明治維新から節目の150年にあたります。昨

年は小千谷小学校開校150年事業、小千谷スキークラブ創立100年に見られるように学校関係や小千谷学生寮、ライオンズクラブ等、周年事業も多く行われ、改めて明治維新から20世紀という激動の時代を振り返り、その教訓の中から未来に向けてどういう道を進むべきか考えた一年でもありました。

他にも旧西脇邸への支援策について市議会として、予算枠を念頭におき、議決権を持つ議会として、行政側がガイドラインを作り、小千谷市の歴史を後世に受け継げるよう大塚市長に要望書を提出いたしました。その後ご案内のように、市内不動産会社への売却となりました。

また議員発議による「手話言語条例」を全会一致で可決し、さらに開かれた議会を目指し、議会改革検討委員会を任意で立ち上げ活動しているところです。最後に新しい年が活力に溢れ、市民の皆さまが笑顔で暮らせる素晴らしい年になりますよう心より祈念申し上げます。より心より祈念申し上げます。

第4回定例会 議決結果 (12月1日から12月22日まで開催)

議案番号等	議 件 名	議決状況	議決結果
条 例	議案第86号 小千谷市職員の育児休業等に関する条例の一部改正	全会一致	原案可決
	議案第87号 小千谷市議会の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正	賛成多数	〃
	議案第88号 小千谷市長、副市長及び教育長の給与額並びにその支給に関する条例の一部改正	賛成多数	〃
	議案第89号 小千谷市職員の給与に関する条例及び小千谷市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正	全会一致	〃
	議案第90号 小千谷市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正	〃	〃
	議案第91号 小千谷市民会館条例の一部改正	〃	〃
	議案第92号 小千谷市国民健康保険税条例の一部改正	〃	〃
	議案第93号 小千谷市都市公園条例の一部改正	〃	〃
議案第94号 小千谷市ガス供給条例の一部改正	〃	〃	
予 算	議案第95号 平成29年度小千谷市一般会計補正予算(第6号)	賛成多数	〃
	議案第96号 平成29年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	全会一致	〃
	議案第97号 平成29年度小千谷市介護保険特別会計補正予算(第2号)	〃	〃
	議案第98号 平成29年度小千谷市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	〃	〃
	議案第99号 平成29年度小千谷市ガス事業会計補正予算(第2号)	〃	〃
	議案第100号 平成29年度小千谷市水道事業会計補正予算(第2号)	〃	〃
	議案第101号 平成29年度小千谷市工業用水道事業会計補正予算(第1号)	〃	〃
	議案第102号 平成29年度小千谷市下水道事業会計補正予算(第2号)	〃	〃
その他	議案第85号 専決処分(平成29年度小千谷市一般会計補正予算(第5号))	〃	承認
	議案第103号 小千谷市、魚沼市教育に関する事務の一部の事務の委託の廃止	〃	原案可決
発 議	発議案第5号 小千谷市手話言語条例の制定	〃	〃

議員賛否の状況 (採決において賛否が分かれたもの)

議案番号等	議決結果	賛 成	反 対	森本忠理子	住安 康一	駒井和彦	大矢弘光	佐藤栄作	上村行雄	内山博志	佐藤隆一	長谷川有理	阿部正行	久保田陽一	山賀一雄	田中 淳	本田 剛	久保田久栄	風間順一
議案第87号	原案可決	12	3	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	-	○	○	○
議案第88号	原案可決	12	3	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	-	○	○	○
議案第95号	原案可決	9	6	×	○	×	○	○	○	×	×	×	○	○	○	-	○	○	×

※ ○は賛成、×は反対、議長(田中淳)は採決に加わりません。

常任委員会報告

総務文教委員会

本委員会に付託されました議案12件のうち、11件は総務文教委員会単独で、1件は民生産業委員会との連合審査会で慎重に審査した結果、原案の通り可決すべきものと決しました。

○議案第86号 小千谷市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

本案は地方公務員の育児休業等に関する法律の改正により、非常勤職員の育児休業について、特別の事情がある場合に、子が2歳に達するまで休業できるような措置されたことに伴い改正するものです。

○議案第87号 小千谷市議会の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

本案は平成29年の人事院勧告に基づく国家公務員の特別職の職員の給与に関する法律の改正に準じ、議員の期末手当の支給率を引き上げるものです。

○議案第88号 小千谷市長、副市長及び教育長の給与額並びに

その支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について

本案は平成29年の人事院勧告に基づく国家公務員の特別職の職員の給与に関する法律の改正に準じ、市長、副市長及び教育長の期末手当の支給率を引き上げるものです。

○議案第89号 小千谷市職員の給与に関する条例及び小千谷市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

本案は人事院勧告に伴う職員の給与等の改定に関連する2つの条例を一括して改定するもので、国の人事院勧告及び新潟県人事委員会の勧告を基に本給及び勤勉手当の支給月数を引き上げるものです。

○議案第90号 小千谷市特別職の職員で非常勤のものものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

本案は農業委員会等に関する法律が一部改正され、農業委員会の必須事務に農地等の利用の最適化が位置付けられたことに伴い、農地集積や遊休農地解消等に活動・成果に応じて、基礎的な報酬に上乘せし報酬を支払うことを可能とするものです。

○議案第91号 小千谷市民会館条例の一部を改正する条例の制定について

本案は市民会館の調理実習室を中会議室に変更することに伴うものです。

○議案第94号 小千谷市ガス供給条例の一部を改正する条例の制定について

本案は経営健全化を図るため、総括原価見直しによるガス料金 の改定及び、調整単位料金を算出する際の基準平均原料価格、平均原料価格上限値及び本支管工事費の本市負担額を併せて改正するものです。

○議案第95号 平成29年度小千谷市一般会計補正予算(第6号)について

本案は歳入歳出それぞれ2312万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ181億2470万3千円とするものです。

○議案第99号 平成29年度小千谷市ガス事業会計補正予算(第2号)について

本案は職員の給与改定及び人事異動等に伴う人件費補正及び県の表沢川河川改修事業に伴うガス管の補償金工事費計上による本管整備の増額によるもので

す。

○議案第100号 平成29年度小千谷市水道事業会計補正予算(第2号)について

本案は職員の給与改定及び人事異動等に伴う人件費補正及び県の表沢川河川改修事業に伴う水道管の補償金工事費計上による配水管整備の増額によるものです。

○議案第101号 平成29年度小千谷市工業用水道事業会計補正予算(第1号)について

本案は職員の給与改定及び人事異動等に伴う人件費補正によるものです。

○議案第102号 平成29年度小千谷市下水道会計事業補正予算(第2号)について

本案は職員の給与改定及び人事異動等に伴う人件費補正及び県の表沢川河川改修事業に伴う下水道管の補償金工事費計上による汚水管渠整備の増額によるものです。

きものと決しました。

○議案第92号 小千谷市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

本案は平成30年度からの国民健康保険制度改革による県単位化に伴い、仮算定による賦課を廃止し、普通徴収の納期の変更及び関連する条文を改正するものです。

○議案第93号 小千谷市公園条例の一部を改正する条例の制定について

本案は都市公園法及び都市公園法施行令の一部改正に伴い、公園内に設置される運動施設の敷地面積の割合の上限を規定するものです。

○議案第96号 平成29年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)について

○議案第97号 平成29年度小千谷市介護保険特別会計補正予算(第2号)について

○議案第98号 平成29年度小千谷市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について

以上の3議案は、いずれも職員の人事異動等に伴う人件費の補正を主とするものです。

民生産業委員会

本委員会に付託されました議案5件について、慎重に審査した結果、原案のとおり可決すべ

市政の内容を聞く

一般質問

労働力確保・放課後支援について

森本恵理子 議員

人口減少に伴う労働力確保

質問 人口減少が経済成長を阻害しないように市としてどのような支援ができるか、民間業者のAI・ICT活用への取組に対する支援について伺う。

答弁 産学連携推進員を配置し、市内企業への情報提供など実施。今後も就職支援を含め労働力不足対策に取り組んでいく。

質問 障がい者雇用の現状と課題、今後の方針について伺う。

答弁 企業から理解を深めても

らい、ニーズに合致した訓練を行うことが課題。就労後の定着支援も大切であると考えます。

質問 外国人技能実習制度について、所見と支援について伺う。

答弁 「技術力のおちや」をアピールすることに繋がる。監理団体の許可を希望する団体には情報提供を行っていく。今後、体制整備について研究していく。こともたちの放課後支援

質問 放課後児童クラブについて教室を増やし、増員の予定は。

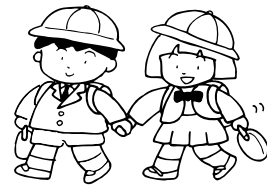
答弁 定員を超える在籍数のため、新規クラブの開設を検討。

質問 保育者の就労問わず、希望する全員が開催日に充実した放課後子ども教室などに入れるように検討を進めることが、子育て支援しやすい環境づくりにつながるのでは。

答弁 放課後子ども教室の拡充には会場の確保や活動ホランテアの確保など課題がある。児童が安心して放課後を過ごせる居場所を確保し、保護者が安心して働ける環境づくりに努める。

質問 中学生の放課後の居場所について伺う。学校間格差は。

教育長答弁 放課後や夏休みに学習支援を行っている。規模によって差が出てしまう。



資源循環型社会の実現に向けた取り組み

佐藤 隆一 議員

質問 飲食店から出される割り箸のリサイクル事業に取り組んでいたエコネットおぢやが活動を休止しました。市民の家改築に伴って、発生する煙や臭いのトラブルを恐れた予防措置だったのではないですか。

答弁 利用者からクレームがあったわけではありません。会とは事前に話し合い、宿泊やキャンプなどで利用者が滞在中は活動を自粛するなど共存を模索してきました。自主的な判断だと理

解しています。

質問 市民の家の遊歩道が小屋の撤去により延長された経緯は。

答弁 当初は会の活動と共存する計画でした。昨年3月に小屋の土地使用を延長しないと話があり計画を見直したものです。

質問 現場は日業務に追われています。広い視点から会の活動に助言が必要だったのではないのでしょうか。

答弁 職員が専門性のもとより、さまざまな視点から能力を高めることは重要だと思います。

質問 小千谷市は大量退職と採用人員の平準化という困難な課題に向き合っています。自治体サービスは人員配置と直結しています。現状は適正な職員配置が行なわれているのでしょうか。

答弁 職員数はかなり切り詰められているのが現状です。諸課題に対処できるよう、計画的・適正な配置に努めています。

質問 リサイクル啓発活動や割り箸を使うちぢみの里はどうするのでしょうか。

答弁 ちぢみの里は月に最大で7000膳が出されています。

現在は処理業者に回収を委託しています。また、啓発活動については関係団体と協議します。



リサイクル社会の実現

柏崎刈羽原発と国保税の徴収について

内山 博志 議員

質問 2016年、国際原子力機関（IAEA）は、日本の原子力規制委員会について、事業者から出された資料を受け身で対応しており、科学的に解析できる力はないとして、事業者の試験、検査の問題点を指摘でき

るよう力量を高める必要がある

と指摘している。米山知事は、国の政策や基準をそのまま受け入れるのではなく、県民の声に耳を傾け、自らの考えで福島原発事故の検証、健康と生活への影響、安全な避難方法という3つの検証を掲げているがどうか。

答弁 住民の安全確保の考えは同じ、新潟県の検証を注視していきたい。

質問 東海第2原発のある東海村と水戸市や日立市など周辺5市でつくる「原子力所在地域首长懇談会」は一致して「原子力安全協定」の「事前了解」の権限拡大を求めている。柏崎刈羽原発の周辺自治体7つと協議を進める考えはないか。

答弁 新潟県内自治体の研究会で研究している。県の技術委員会の検証を基に知事が判断するものと考えているので現在のところ考えていない。

質問 国保税の滞納が1割程度になっている原因は、国からの交付金が大幅に減額されていることだ。滞納処分執行によってその生活を著しく窮迫させる恐れがあるときは執行を停止す

ることができるとして、税引き後、本人月10万円、同居生計親族一人につき4万5千円の加算がある。滞納者にこの基準を知らせるべきではないか。

答弁 督促状や戸別訪問など折衝を図り、状況に応じ対応している。



農業政策、117号線 歩道整備、学校トイレ

風間 順一 議員

質問 生産目標仮配分の基準単収542kgは、五割減減や中山間地域には多いと思うが算出根拠は。

答弁 過去7年間の収量実績から最大、最少を除いた5年分の

平均値に網目補正を掛けた。

質問 飼料米の需要と作付けは。

答弁 7・9ha作付け。当市に需要がないため全農等に出荷。

質問 日本型直接支払交付金事業は農振農用地の何%か。

答弁 多面的機能支払については32の集落7つの活動組織で1742haの申請があり農振農用地の66%に相当する。

質問 中間管理機構を通しての農地の貸し借り、担い手の現状と問題点について。

答弁 受け手が決まっていない状態の時は地区の農業委員に相談、7月からの新制度の下、今まで以上に関与していただけるものと期待している。傾斜地が多い、大圃場が少ない、コシヒカリの作付け割合が高い、担い手となる専業農家の絶対数が少ない等が問題点。

質問 晩生の新之助をコシヒカリと並ぶ2大ブランド米にする支援は。

答弁 今のところ限られた生産者だけが作れる米だから支援は特にならない。市場の動向や栽培方法の確立等を見極め、JAと連

携し適宜対応したい。

質問 国道117号線の歩道整備について継続しての実施願う。

答弁 今後も継続して実施の予定と伺っている。早期整備が図られるよう県に要望したい。

質問 小中学校のトイレの洋式化の現状と子どもの心情に配慮した今後の取り組みについて。

教育長答弁 当市の洋式トイレの割合は53・9%。洋式化をメインとした整備を進めたい。



市政運営と三世代同居について

阿部 正行 議員

質問 この三年間の感想は。

答弁 市長就任以来三年間市民

各位の理解と協力に感謝し、合併せず独立した自治体として持続可能なまちになるよう精一杯諸問題に取り組んでいく。

質問 市の課題は。

答弁 今年の新病院の開設、錦鯉の県鑑賞魚の指定、おぢやのオープン等撒いた種から芽が出てきており、それらの展開と人口減少の抑制、いずれにしても総合計画、戦略に基づき生き生きと暮らし続けるまちづくりに努める。

質問 未来へのメッセージは。

答弁 第五次総合計画において「ひと・技・自然 暮らして実感 地域の宝が輝くまち おぢや」を実現することが使命であり、一人一人が輝き、それによって住みやすいまちを目指す。

三世代同居について

質問 三世代同居の現状は。

答弁 小千谷市の割合は全世帯中19・8%であり、県平均より高く20市のうち五番目である。

質問 国の支援は。

答弁 少子化対策の一環として新築の際に三世代同居に対応した支援があり、また、三世代同

居にしたい。

質問 国道117号線の歩道整備について継続しての実施願う。

答弁 今後も継続して実施の予定と伺っている。早期整備が図られるよう県に要望したい。

居に対応したりリフォーム工事実施の際の所得税控除がある。

質問 小千谷市独自の支援は。

答弁 住宅リフォーム補助金の交付があり国の支援事業の推進等動向を見定めた。

質問 三世代同居についての子育てとまちづくりについて。

答弁 生活面や経済面等のメリットやその反面デメリットもあり、現行制度を最大限活用していただきたい。



認知症徘徊対策・事業承継・満足度調査

住安 康一 議員

質問 認知症になる人数が増加する中、認知症徘徊者の早期発

見のため、徘徊探知機の導入や防災行政無線放送、緊急情報メールの使用並びにコンビニや有効の締結など、早期発見のための有効手段の検討が必要では。

答弁 現在、警察のFAXシステムへの協力や「徘徊SOSネットワーク事業」を実施。地域住民による見守り体制の構築も進めている。今後も、緊急情報メール等の利用も含め、早期発見のための手段を検討したい。

質問 しつかりとした中小企業の事業承継対策を推進することが重要。若い世代に事業承継してもらおう仕組みづくりや、当市への事業承継のため移住してもらおう仕組みづくりも重要。当市として事業承継をどのように進めていくのか。

答弁 商工会議所ではセミナーや個別相談を実施。事業承継の準備を早期に始めることの重要性や、円滑な事業承継を実現するうえで必要な情報を小千谷商工会議所とともに提供したい。

質問 住民福祉の向上のため、住民満足度・住民納得度の調査

を行うとともに、住民満足度を高めるための職員満足度について調査を行い、組織力や職員力の向上、そして住民福祉向上に繋げていくべきと考えるが。

答弁 5年毎の市民意向調査により市民満足度の把握に努め、毎年の市政懇談会の開催、町内会や様々な団体との意見交換会により意見を伺っている。職員のモチベーション向上のため、人事評価制度の実施過程で職場環境の満足度の申告や面談をとおして課題の把握を行っている。



共生・交通政策・大地の芸術祭について

長谷川有理 議員

質問 共生のまちづくりについて 共生の環境づくりを進め

る民間事業所に合理的配慮の提供を支援する助成制度を。

答弁 町内集会場等改修補助はあるが、民間事業者への助成は勉強したい。

質問 小千谷市手話言語条例制定で、市民周知をどう行うのか。

答弁 条例の制定と手話が言語であること、手話に対する理解をまずは周知・啓発していく。

質問 農福連携の需要の掘り起こしを。ジョブコーチの設置を。

答弁 関係機関と連携し柔軟に支援していく。ジョブコーチも検討。

質問 障害者優先調達推進法に基づく物品調達額の増額を。

答弁 額は県内20市中、12番目。企業にも働きかけている。

質問 交通政策について 市民が待ち望んでいる小千谷IC駐車場整備の進捗は。

答弁 平成27年敷地候補地選定。平成28年現況測量。今年度実施設計。今後工事着手、完成に向け、協議していく。

質問 循環型バスの実態と課題。
答弁 利用の少ない時間帯や停

留所がある。今後協議していく。地域活性化とデザイン、広域連携について

質問 当市南部地域を大地の芸術祭と連携させるべき。旧中魚沼郡、飯山線、信濃川、河岸段丘、佐藤佐平治翁、JR東日本、水力発電、豊かな里山等と、妻有地域と当市は共通項が多い。観光アートの分野での広域連携を行い中山間地の活性化、農業文化の活性化を図るような広域的なデザイン力向上を図るべき。

答弁 全国的に有名なイベントになっており、当市にもイベント来場者や宿泊客が訪れている。今後どのような取り組みが可能か研究したい。



英語教育について

上村 行雄 議員

質問 来年4月からの小学校5・6年生の英語教育についての具体的内容及び学習時間について。

教育長答弁 平成30年度及び31年度の移行期間については文部科学省が新たに教材を作成し直し、年間50コマの授業を行い、32年度より年間70コマの授業を行う。

質問 英語教育の時間が増えることによる他の教科への影響や中学校での英語教育の変化や対応について。

教育長答弁 他の教科への影響を極力避けるために、現在、各小学校において、どのように授業時数を確保するか検討している。また中学校での英語教育の変化については、現在よりレベルアップすると考えられる。今後の対応については、移行期間中において、小・中の学習内容の連続性が保たれるよう取り組むことになっている。

質問 A L Tの役割について。

教育長答弁 A L Tの担う役割は重要であると考えている。今後はA L Tの増員や教員の研修を充実してこれまで以上に教員との連携を深めて行く。

質問 英語教育に対する先生方の充足度や指導力への対応について。

教育長答弁 小学校では、英語の授業は原則学級担任が行うことから、教員誰もが英語の指導ができるよう研修を行う。また小千谷市教育研究会において小学校英語委員会を設置し、新潟県教育センターより講師を招いての学習会を開催するなどして指導力の向上に努めている。



議会中継

市議会本会議は市ホームページからインターネットライブ中継でご覧いただけます。本会議当日のライブ中継のほか、録画映像もご覧いただけます。

(録画映像は本会議終了後、通常、休日(土日・祝祭日等)を除く5日後から1年間ご覧いただけます。)パソコンだけでなく、スマートフォン、タブレットでもご覧いただけます。

URL <http://www.city.ojiya.niigata.jp/>



市議会を傍聴してみませんか

第1回定例会日程

- 2月27日(火) 第1日 議案上程説明
- 2月28日(水)～3月7日(水) 各常任委員会で審査
- 3月15日(木) 第2日 一般質問
- 3月16日(金) 予備日 一般質問(質問者が多い場合に開催)
- 3月20日(火) 最終日 委員長報告、採決



※日程は変更される場合があります。各委員会の日程、団体での議会傍聴については議会事務局(TEL83-3505)へお問い合わせください。

委員会の傍聴については、あらかじめ議会事務局へお申し出ください。

議会の日程は、市ホームページからご覧いただけます。

URL <http://www.city.ojiya.niigata.jp/>

行政視察報告

総務文教委員会

平成29年10月18日～20日

英語村(英語力向上プラン)事業について

大阪府寝屋川市

寝屋川市は小中一貫した英語教育を平成17年より取り組んでいる。学校とは違う場所です複数の外国人と英語だけで過ごす場が「英語村」であり、様々な時間で自分の英語力を試すことができる。英語が通じた時の喜びを得ることで学びたいという学習意欲を高め、英語力の向上を図ることができる。そして、その成果として「英語や外国についてもっと知りたい」とアンケートに回答した小学5・6年生は90%以上いることから伺える。また、幼少期より英語に親しみ、身近に聞けたり話せたりする環境があることで、英語に対する苦手意識を持たせないことも重要とのことである。

平成30年4月より小学校の英語教育の義務化がスタートする。



近年のインバウンドの増加、企業の海外進出や取引など、より英語でのコミュニケーションの必要性も感じられる。当市においても、産業や交流など様々な分野で英語が必然的に使われることが考えられる。そのため、独自の英語教育の取り組みによる、使う英語を身に付けることが必要になってくると考える。将来グローバルに活躍する人材が育まれるよう環境整備と体制の構築などの重要性を感じた。

不登校対策総合プログラム事業について

奈良県大和郡山市

全国的に不登校、いじめ等が問題になっていることの対策として、大和郡山市が「不登校対策総合プログラム」事業を推進している。その取り組みについて、これからの将来を担う児童の環境整備に当市においても活かされればと思いい視察を行った。

大和郡山市では、適応指導教室「あゆみの広場」で得られた臨床の知を活かしながら教育活動を展開できるよう、教育課程を弾力化した学科指導教室「ASU」を展開している。

学科指導教室「ASU」は、不登校児童生徒が一時的に学校以外の場所で学ぶことを保障していくという教育上の配慮が必要であるとの考えのもと、不登校児童生徒の社会的自立を目指した新しい学びのスタイルを提供している。その他、通学区域の弾力化を図り、市内の不登校児童生徒が転入学する学校を主体的に選択していけるように配慮している。月1回、不登校児童生徒の親の会が、茶話会を開催。



不登校児童生徒が、学科指導教室「ASU」で学ぶことで自己肯定を認識し、普通に学校に復帰をする事の大切さを感じた。

子ども総合支援センターについて

奈良県橿原市

子どもと保護者、関係者を早期から総合的に支援することにより、子どもの健やかな成長発達を促し、保護者の子育ての悩みや心配事を軽減することを目的とする子育て支援事業を視察した。

発達支援事業として心理士、理学・作業療法士、言語聴覚士

などにより発達の段階を検査し子どもの自発的な発達を促す個別療育を行う。また、乳幼児健康診査や発達相談、就学相談での利用も可能である。

その他、市内保育園・小中学校教職員等の研修センターとしての役割も併せ持つ。

子どもの目線で楽しいアイデアでの動機づけを考えているという点において、『子ども達のために』というスタッフの意識の高さを感じ取ることができた。よき人がよき事業を生み出すのであろう。充実した制度や設備もさることながら、関係者の信念を感じた視察となった。

民生産業委員会

平成29年10月11日～13日

航空機産業総合人材育成事業について

岐阜県各務原市

企業としては、宝である人材をどのように集められるか、育成していくかが重要な課題である。企業は存続をかけた努力をしているが、小規模企業になればなるほど人材育成のための資金と時間をかけられない。各務原

市の航空機産業の特徴として、高度な技術と精密な寸法等が要求され、人の技術力の向上が求められる。今まではOJTによる育成をしてきたが、限界があるため人材育成事業が必要となった。

人材育成の推進にあつては、その地域の特色・実情並びに企業が何を求めているかの把握が重要となる。その点からは、当市での「テクノ小千谷名匠塾支援事業」や各務原市での「航空機産業総合人材育成事業」は的を射た事業となっているように思われる。

将来を見据えたとき、在職者向けの人材育成のほか、学校就



学時において地元で就職してもらうための取り組みの重要性を、あらためて認識できた。

議会運営委員会

平成29年11月15日～16日

議会基本条例制定までの経緯や条例による議会運営について

新潟県糸魚川市

糸魚川市議会の議会改革について平成25年度から短期目標、中期目標、長期目標を設定し、改革に向け検討をスタートし順次達成していった。早急に結論を出すものとして議長や委員の任期について、常任委員会への自由討議の導入などを検討。自由討議に関してはその年度うちに導入するなど早急に対応していった。翌年までの中期目標として設定した反問権の導入、市民意見交換会の開催などは検討、試行後実施に至った。2年後までに結論を出すとした長期目標として議会基本条例の制定（平成28年9月制定）、倫理規定の制定（平成29年3月制定）などを検討。

制定後の議会基本条例には一

般市民でも理解しやすいような解説付きを作成し、より市民目線で物事に取り組み姿勢を感じた。また基本条例の中に「議員活動原則」を設けるだけでなく、議会政治倫理規則において更に細かく定めていた。一般質問における市長からの反問権や意見交換会など当市においてもすぐに取り組むことができるものは早い段階で検討し、実施していく必要性を感じた。

議会活性化の取り組みにCSND

福井県越前市

現在、私たちの小千谷市議会では、議会改革に向け議会改革検討委員会を立ち上げ、議会基本条例の制定を含め様々な検討をしている。そのような中で、越前市議会においての10年間の議会活性化の取り組みを学ぶことは大変意義があり、特に市民参加を推進し、市民の意見を取り入れるための「議会モニター制度」や「市民と議会との語る会」は参考になった。

議会モニター制度はモニターの8人に議会の本会議や委員会審議など傍聴してもらい、その

後のモニター会議において議員と議会運営全般に関する意見・提案等について意見交換をする。その後提出された意見等について検討し、意見・提案等及びこれに対する検討の結果は、議会広報誌への掲載などの方法により公表。モニターの方が議会や委員会を傍聴したうえで感じた様々な意見は、貴重な意見であり、議会改革につながる重要な視点となっていること。更には議員には緊張感が生まれて良い刺激になっていることは、議会活性化にとって良いことだと感じた。



会議録の閲覧

市議会本会議の会議録(平成15年第1回定例会以降)は市ホームページからご覧いただけます。パソコンだけでなく、スマートフォン、タブレットでもご覧いただけます。

(平成29年第4回定例会の会議録掲載は、2月末頃となります。)

一般質問等の詳細はこちらをご覧ください。

URL <http://www.city.ojiya.niigata.jp/>



〈10月〉

- 1日 小千谷小学校創立150周年記念式典
- 4日 議会報編集委員会
- 市議会議員と商工会議所女性会との懇談会
- 5日 議員全員協議会
- 6日 東小千谷中学校創立70周年・東山中学校統合30周年記念式典
- 10日 議会報編集委員会
- 11日 民生産業委員会行政視察に出発(岐阜県各務原市)
- 18日 総務文教委員会行政視察に出発(大阪府寝屋川市、奈良県大和郡山市・橿原市)
- 21日 片貝中学校創立70周年記念式典
- 22日 小千谷中学校創立70周年記念式典
- 25日 小千谷市議会改革検討委員会
- 30日 北信越市議会議長会評議員会(金沢市)
- 2日 民生産業委員協議会

〃

- 6日 中越地区市議会議長会(小千谷市)
- 8日 政友会、新政の風行政視察に出発(長野県大町市)
- 10日 全国市議会議長会評議員会(東京都)
- 14日 小千谷市議会改革検討委員会
- 15日 手話言語条例策定委員会
- 20日 議会運営委員会行政視察に出発(糸魚川市、福井県越前市)
- 24日 議員協議会
- 20日 議員全員協議会
- 〃 議員協議会
- 1日 第4回定例会(本会議)
- 4日 議会報編集委員会
- 5日 常任委員会連合審査会
- 6日 総務文教委員会
- 〃 民生産業委員会
- 13日 小千谷市議会改革検討委員会
- 19日 総務文教委員会学校訪問と教育委員との意見交換会
- 20日 議会運営委員会
- 22日 本会議(第2日)
- 〃 本会議(第3日)
- 〃 本会議(第4日)

〈11月〉

- 2日 民生産業委員協議会

〃

- 22日 議会運営委員会
- 〃 議会報編集委員会
- 〃 本会議(第4日)



山口 早苗(鴻巣)

稲作専業農家として約五十年。近年は畑作(小麦栽培)にも力を入れている。父祖伝来の農地を耕し、代々の恩恵そして地域の恵みを感じている。価値あるものは、実は足元にある。雪国小千谷には、他に無い宝がある。その宝をかみしめたいと思うこの頃である。農業は世間一般にマイナーな

産業と思われているかもしれないが、実は未開拓の成長産業である。

昭和の四十年代以降は機械化の時代であり、今日では、さらに無人ヘリコプターやドローンによる農作業の効率化が進められている。かつてのような泥田の重労働ではなくなったのである。

平成の今日、農業関連部門の進展が求められている。趣味が昂じて、パン作りから、ピザ、うどん、ラーメン、しょう油の製造に取り組んでいる。いずれも小麦栽培から発展したもので、小麦を育ててみたところ予想以上によく穂ったことから、食品加工に取り組んだものである。ふるさと小千谷には、豊かな大地がある。耕作放棄や「遊休」状態にしてよいはずがない。

まさに雪あかりのもと、地酒小千谷の誇る「高の井」「長者盛」を酌み交し、一杯また一杯・・・ここに無上の味わいがあると思ふ今日この頃です。

編集後記

今号の表紙を飾りました「小千谷市手話言語条例」制定。

これまでの行政提案の条例ではなく、議員・議会が市民の声に耳を傾け、条例制定に向けて自ら勉強し、行動し、折衝しながら手話言語条例を作り上げたことはとても意義があり、今後の小千谷市議会の一つの転機になり得る動きでした。

今回の手話言語条例制定はゴールではなくスタートです。この条例制定をきっかけに聴覚障がい者だけでなく、他の障がい者も含めた小千谷市の福祉施策全般の底上げと充実を切に願うとともに、「互いに支え合い 尊重しあい いきいきと暮らせるまち」の実現を目指し、今後も議会として全力で市政に取り組んでまいりますので、ご意見ご指導をよろしく願います。

最後に、この条例に関わっていた皆さまに全ての方々に御礼申し上げますとともに、衷心より感謝いたします。

編集委員 久保田陽一
(手話言語条例策定委員長)